

このテーマを選ぶにあたって

昨年度の部誌を手にとってくださいました方は、お久しぶり（と言っても、昨年度はコラムを書いただけなので、詳しく読んでくれていた人も記憶にないかもしれない）。今年が最初だという方は、初めまして。新高生として昨年度本校に編入されました、59 回生の Faey です。長所は、好きなことにはこだわりを持ってとことん打ち込めることで、また逆に短所は、嫌いなことには興味すら示さないところです。要するに、この学校の多くの生徒（あるいは教師）の典型に漏れぬ偏った変人であるということでもあります。

さて、このような場で何故に自己紹介を始めるかと言えば、それは私がなぜこのテーマを選択したかに直結するからです。私は、入部当初からこの部のウェブページの制作を担当し、外観の改装からユーザビリティやアクセシビリティまでを視野に入れた設計まで、とことんこだわってやって参りました。飽きっぽい私がここまで打ち込めるのは、それはひとえに私がこの仕事を愛している¹からであって、それ故に、変人の中でも変人を集めた我がパソコン部にあって、その彼らから変人扱いされることにも平常を保っていられるわけです。

ここで前書きという場を借りて（同時にページ稼ぎの意味もかねて）深く掘り下げてみますと、このウェブページを構築するという作業に要する技術、即ち、配色であるとか、画像の作成能力であるとか、そういったことは、往々にして非常に根気のいる、そしてまた細かい作業の連続であることが多いのです。色を RGB で示される 1677 万色から選び出し、ピクセル単位で要素を配置し、ドット単位で画像を調整する作業の面倒臭さは、この大げさな言いようを受け流しても伝わるかと思えます。しかしながら、日本人ゆえか、母から受け継いだのか、都合のいいことに私は細かい作業に対しては打ち込みを感じることはありませんから、これらの要因が私をこの作業に没頭させる、少なくとも一因であると位置づけることができるでしょう。

そしてまた、この要因によって人々が等閑に捨て置く作業を最後まで達成できることに、いわゆる達成の喜びであるとか、優越感²であるとか、そういった快感を得ることができるからこそ、私はこの仕事を愛し続けていられるのではないかと思います。人付き合いと体育ほど苦手なものはない私ですが（もちろん、引きこもりをやっているという意味ではありません）、相手の顔が見えないこのネット空間は非常に快適なものであり、この世界で無差別に情報を発信できることの喜びは捨てがたいのです。

¹)Love という単語を直訳するに値する言葉は日本語に存在しないから、こう表現する

²)この言葉を偽善的に否定する気は、私にはない。

大衆社会に属する以上、他と比較してこの感情を抱くのも、あるいは劣等感に苛まされるのも、また事実であるのだから。

インターネットという世界は、世間的に一番有名であろう「2ちゃんねる」が明白に示しているように、誰が何を言おうと、その発言の根拠を求めることができない、そういった世界であります。嘘と欺瞞が散在し³⁾、現実世界以上に、情報を見極める力が必要となる世界です。その上に、たいていの場合、法的権力の仲介なしにして発言者の顔を見ることができませんから、荒らしや煽り、騙りと呼ばれる者たちも、あちらこちらで目にすることができます。この世界は、夜の帳の中にある無法地帯と言っても過言ではありません。住人を縛るのは、ネットマナーと呼ばれる、彼ら自身から不快感を遠ざけるために存在する自発的なルールのみなのです。もちろん、これには明確な位置づけは存在しないわけであって（なぜか解説サイトを立ち上げるような者もいるわけですが）、結局は、当人たちの意志によってこの世界は保たれているというわけです。

そんな世界で、彼ら攻撃者から身を守るには、ある程度の能力が必要となります。粘着と称されるほどにしつこい者に至っては、自分の能力の全く及ばないことを棚に上げて、やれアクセシビリティがなっていない、デザインのセンスが悪い、こんなタグはもってのほかだ、などと文句をつけてくるわけではありますが、そういった者たちから身を守るためには、これから述べるアクセシビリティやユーザビリティといった感覚を身につけておく必要があります。即ち、こういった輩を呼び寄せないための雰囲気を作り上げることが大切なのです。

もちろん、本来の意味としてのアクセシビリティやユーザビリティを捨て置くわけではありません。身体に障害を負う方々や年齢の方などが、健康な人々と全く同じように日常生活を送れるようにというノーマライゼーションの考え方が社会の中で一般的に浸透しつつある今、これらの考え方を取り入れたサイトを構築することは、まったく当然であるといえましょう。よく問われるような、利益を中心とした考え方をすれば、これらのことによって快適なアクセスを試みる人々が増えるということです。サイトにおいて何が大切であるかは個人個人の価値観によってそれぞれ違うわけですが、それぞれの分野においてよいものを作りたいという理念は共通であるはずで、それをウェブサイトとして公開する以上、そのウェブサイトが快適であることは、情報を発信するにあたって必須だと思われ⁴⁾ます。

そんなわけで、ここで私はこの解説のしにくいテーマを選択することにしたわけです。これを読んで、どう思われるかは当然あなた次第ですが、アクセシビリティやユーザビリティといった考え方に目覚めてもらえれば、私はそれで満足であります。

読むに当たって、いくつか注意事項をば。この文章は、大別すると二つに分かれます。考え方の部分と、技術的な部分です。部誌という媒体に掲載する以上、その内容は前者が主になってしまいますが、後半は、前半で同調していただいた熱意ある制作者にのみ関わりのあることとなります。ですから、読んでくださる方は、まず前半を熟読して、それから後半に移っていただければと思います。

³⁾そしてまた、この世界の住人はこれら愛してやまないものである。エイプリルフールがこの世界最大の祭りであることから、それは窺い知れる。

⁴⁾しかし、新聞は全くどうにかならないのか。常々思うのだが、本当に読みにくい。

この学校に在籍する者ならば、入学前に、あるいは現在でもいやというほど思い知っているでしょうが、この灘というのは非常に重い名前で、これを冠する者は当然優秀であろうという考え方が世間一般にあります。現に背負っている身としては、この学校に在籍する 1200 人がそろいもそろって万能人であるかといえば、そんなわけはないと叫びたいわけではありますが、私たちが何を叫ぼうが、それは単なる優越した者の謙遜ととられて相手されることはありません。教師の方々は、常々、この名を背負って生きていく覚悟をしる、と仰りますが、これは自惚れであろうはずがありません。期待され、信じられ、あるいはそれを前提に憎まれることは、その対象にとっては凶悪

なプレッシャーに化けるのですから。

灘と聞けばいやな顔をする人々は、世間に少なくありません。そのほとんどは、語弊のある言い方をすれば、単純な劣等感の裏返しでありましょうが、しかしそれだけで攻撃される身になってはたまりません。パソコン部の掲示板にも、時々そういった書き込みがあります。どうしろというものでもありませんが、正直に本音を申しますならば、ネット世界で軽蔑されるような荒らしや煽りといった行為は、私たちから見ても哀れでしかありません。当然、他の閲覧者に不快でしょうから消しますが、そういった方々は自分を見つめてよく考えるべきだと思います。



動的なページと美しいページ

この章では、タイトルのように、近年の技術の進歩に伴う変化を受けて、その是非を考えていきたいと思えます。まずは、この動的、ということと、美しい、ということの説明から入りましょう。

動的なページは、それこそ近年になってようやくもたらされた技術の産物です。ここで言う動的とは、例えば現在時刻の表示を刻々と変化させたり、Explorer 風のメニューを作成したり、といった、完全に静止した単なる文章ではないページのことを意味します。Flash, Shockwave といった外部プラグインに依存した技術は、その使用のほぼすべてが動的なページの作成を意味し、また、JavaScript, VBScript などといったスクリプト言語を利用して、似たような動作を実現できます。前者はプラグインという形で、あたかも画像のようにして HTML 文書内に貼り込まれる反面、後者は HTML 文書の表示に影響を与えることができる、という点が異なるといえるでしょう。これらの技術は、それ自体がそもそも動的なウェブページの作成を目的として作成されており、従来の HTML 文書が一度表示されたらそのままだった、つまり、ハイパーリンクのついた紙媒体と同じだったものを、飛躍的に華々しく進歩させました。つまりは、これらは、静的な世界に動きを与える、いわば副次的技術であるといえます。近年の通信速度や処理速度の向上によってかなり快適に動的なページの閲覧が可能になりましたが、しかし、従来と比べて非常に重いというのも事実です。

対して、美しいページとは、複数の意味を持ち合わせます。正確には、三つの美しさが成立して初めて、美しいページであると言うことができます：

綺麗なページ：要するに、外見が美しい、ということです。見難くはないか、サイトのテーマに沿ったデザインであるか、ということです。皆さんが、美しいページの条件は何か、と問われれば、まずこれを第一条件としてあげる

でしょう。ただし、これはセンス云々という感覚的な話ですから、そう簡単に上達するというわけにはいきませんし、解説もできません。

厳格なページ：今回のテーマの一つ、アクセシビリティという考え方に基づくならば、これが重要となります。クロスブラウザ⁵⁾で、たいていのユーザが差異なくアクセスできるページを求めるためには、規格に厳格であることが必須なのです。本文では、Strict な HTML を書くことに関して書こうかと思えます。

ちなみに、動的なページはこの条件に反します。

便利なページ：こちらも今回のテーマの一つ、ユーザビリティという考え方に基づいて、重要だということが出来ます。ユーザが、迷いなく求める情報にたどりつけるか、あるいはその過程で不快感や苦勞をどれほど感じないか、ということを考えれば、この条件は必須でしょう。

ちなみに、動的なページはこの条件にも反します。

これらの条件は、一見簡単そうに見えて、非常に難儀なものです。一つめの条件をとりあえず保留にして話をするなら（そしてこの文章では常にそうするのだけれども）、二つめの条件に苦勞するのは初心者のうちだけで、真にやっかいなのが三番目の条件となります。HTML や CSS などという言葉は、所詮意味づけ用の言語であってそれほど複雑ではないため、覚えることさえ覚えてしまえば、経験量であつという間に身に付きまします。しかし、便利なページを作ろうと思えば、それは並大抵の努力と配慮では実現できることではありません。サイトを巡るときにそのページの欠点を並べ立てるのは、誰にでもできるでしょう。けれども、その改善策をも考えてみる、と言われれば、そううまくはいかないのです。

さて、この三つの条件のうち、二つ目と三つ目には、気になる文が一つあったはずで、「動的なページはこの条件にも反します」、この一文です。序文でそれをすばらしいことのように言っておきながら、という意見もあるかと思いますが、この文章はそれを主眼として書かれることとなりますから、ご安心ください。

では、早速、動的なページについて詳しく見ていきましょう。

動的なページの長所と短所

はじめに言っておきますと、私自身はこの動的なページに対しては否定的な考えを持っています。それ故、この文章は美しいページを作ることを主旨としています。正確には、美しいページを主旨として動的なページを否定するわけですが、細かいことはどうでもよしい。

さて、動的なページというものの概略を上で述べましたが、それだけではあまりに情報が少ないかと思えますから、それに関しても個別に詳しい説明をしていくことにします。

まず、外部プラグインに依存する技術には、おおよそ以下のものが存在し、利用されています：

⁵⁾複数のブラウザに対応すること。例えば、次のような表示がこれに反する：
「Internet Explorer 5.0 以上、1024 × 768 以

上で閲覧してください」

Opera 使いの私には、非常に不快である。

Flash

FutureWave Software 社が開発したものです。当時は Future Splash と呼ばれていましたが、Macromedia 社が FutureWave Software 社を買収し、Future spLASH から Flash と改称して発売された経緯を持ちます。Macromedia 社の独自技術である Shockwave よりも普及率は高く⁶⁾、おそらく使用しても問題はないでしょう。内部に画像や音楽を取り込むこともでき、また、拡大縮小が自由に行えるような方式⁷⁾を採用しているため、比較的自由的な設計を行うことができます。制作に際して、動作の設定等に用いられるのは Action Script と呼ばれる言語です。

ただし、制作には Macromedia 社の製品が必要となりますし、再生にも同社の Flash Player をインストールする必要があります。Shockwave よりも軽快な容量と動作を持ち合わせますが、逆にゲーム制作などには向きません。外観の華美さという点以外で考えられる利点は、自由なインターフェースを用いることができる、ということぐらいでしょうか。私には、この技術を用いることに利点を見いだすことはできません。

ただ、前述の通り華美さを醸し出すことができるため、企業の多くは自社のウェブサイト好んで用いる傾向があります。

Shockwave

こちらは Macromedia 社の開発したもので、Flash よりもより優れた処理機能を持ちますが、その分ロードも遅く、Flash よりファイルサイズも大きくなる傾向にあります。プラグインの普及率も低く、制作元曰く 50%は超えているようですが、一般のウェブサイトには使用するには向かないでしょう。

開発ツールも割高で、本格的にブラウザ上で動くゲームを作ろうなどという人以外は、手を出さない方が賢明かと思われまます。逆に言えば、この目的に関しては、この技術は最高の代物だといえます。

再生には、同社の Shockwave Player が必要です。

Java Applet

Sun Microsystems 社の開発したものです。数式の結果をグラフ化するときなどに用いられているのを目にするほか、一部ゲームなどに使われているようです。上記二つの技術と違い、動作はそれほど軽快ではないため、特に必要がなければ使わないことが望ましいでしょう。必要となるプラグインの Java Runtime Environment (JRE) は、Macromedia 社の調査によれば Flash Player に次いで高いということですが、ユーザ側の立場に立つならば、全く使用する利点が思い浮かびません。強いて言うなら、前述の通り、扱える数値の桁数が多いため、数学関連のデータを扱うのに有用でしょう。

⁶⁾Macromedia 社の調べによれば、98%もの普及率を誇るそうだが、これは誇張である。英語圏の人々で、かつこのようなアンケートに興味のある

人々の回答の結果であるという条件を忘れてはならない。

⁷⁾これをドロー系と呼びます。

ただ、制作者視点に立つと、これはもっとも有用であるといえます。なぜなら、Java 2 Platform Standard Edition という開発環境がフリーで同社から提供されているからです。また、Java という有名な言語を用いているということも、利点になり得るでしょう。

ActiveX コントロール

Microsoft 社が開発した技術で、元々は OLE コントロールという技術を Web 用に拡張したものであります。この技術の最大の利点は、Windows に搭載された機能のすべてを利用できるという点にあるのですが、それは裏を返せばセキュリティレベルが非常に低いということであり、声を大にして使うなと叫びたい技術です。当然ながら Microsoft 社の技術であるため、Internet Explorer でのみ閲覧することができます。また、使いにくいことこの上ない Microsoft 社のページにも多用されています。

以上の四つは、それぞれに記したとおり、利用するにあたってプラグインが必要となり、また制作するのに専用のツールが必要となります。対して、以下にあげるスクリプト言語と呼ばれるものは、一切のツールが不要です。

JavaScript

Netscape 社が開発した、世界で初めてのスクリプト言語です。その古さ故に、Internet Explorer 3.0, Netscape Navigator 2.0 から使用することができます。Macromedia 社の Java と混同されがちですが、JavaScript はそれ自体確立された一つの言語です。Java を踏襲して制作されたため、名称のややこしいことこの上ないのですが、1995 年に Netscape 社と Sun Microsystems 社の双方が合意して、この言語の名称は正式に認定されました。

この言語は一般に広く普及しており、利用できるという意味では全く問題がないと言い切れます。しかし、その一般性と利用の手軽さ、テンプレートとしての再利用性の高さ故に、多くのユーザが JavaScript のスイッチを切って閲覧している現状があります。従って、使えば皆が同じように閲覧できていると考えるのは行き過ぎです。

近年では、DynamicHTML 関連も扱えるようになりましたから、有用な技術であるとは思いますが、ちらちらと余計な装飾に用いる輩の多さのためにそれも霞みがちです。

VBScript

使用すべきではない、の一言に尽きます。コードがあまりにも危険すぎる⁸ため、通常設定では警告が必ずでますし、それに OK を押す者もそうおりません。

⁸)ブラウザから HDD をフォーマットできるほどに危険である。また、単体で記述されるとウイルス

としても活動できる。LoveLetter ウィルスなどがその例である。

技術自体は、VB の名を冠することからもわかるとおり、Microsoft 社によるもので、Microsoft 社と言えば自社の独自技術を推し進めるのに余念がない会社ですから、使う意味はないかと思えます。

JScript

これも困ったちゃんの Microsoft 社が、Netscape 社の JavaScript を打倒せんとして世に送り出した言語です。Microsoft 社によれば、「Java 言語とも直接的な関連はない」そうですが、正直に言えば、JavaScript との境界線が見いだせないほどに似ています。最多シェアを誇る Internet Explorer で使えるという事実によって、世間ではよく JavaScript として解説されていますが、実は似て非なるものです。Netscape Navigator では動作しません。

区別がつかないと書いたとおり、この技術は本当の意味でやっかいなものです。使用を推奨しないとんでも、JavaScript との区別がつかない現状ではどうしようもありません。簡単な忠告を申し上げれば、もし Netscape Navigator で動かなければ使用をやめることです。

それから、スクリプトとは呼べない代物ですが、以下のようなものもあります。

HTML+TIME

Microsoft 社が発表した、盛大な空振りの一つ。つい先日偶然見かけるまで全く耳にしたこともなかったような技術で、Internet Explorer 6.0 以上のみが対応しています。DynamicHTML の一環を担わせる心づもりでしょうが、クロスブラウザが望ましいとされる風潮の中でこのような明らかに受け入れられそうもない技術を出してくるのは狂気としか思えません。ただ、全ブラウザがこれに対応するならば、CSS さえも連動させるこの技術は非常に興味深いものとなるだろうと思われれます。

実際の実用者によれば、JavaScript より幾分高速で、また記述も簡単であるということですが、私は理解しようと努める気もなければ、触る気もないので説明は割愛させていただきます。

さて、これらの技術のうち、JavaScript を用い、HTML と CSS をも連動させて記述したウェブページを主に DynamicHTML と呼びます。私は、この DynamicHTML という規格には賛成したいのです。なぜなら、動的な CSS の変更が可能であろうという利点は、ウェブデザインを手がける者にとっては非常な利点であると言えるからです。しかしながら、前述したように、JavaScript は一部のユーザには受け入れられない技術であり、その事実が使用の価値を半減させています。

いろいろと利点欠点のみに注目して動的なページに用いられる技術を挙げてきました。結論としてここで述べておこなら、動的なページは、完全に美しいページから逸脱したものであると言い切れるでしょう。プラグインが必要であるもの、ブラウザ依存が激しいもの、どれをとってもよいことはありません。唯一、JavaScript のみを、閲覧に

インターネットを覗けばすぐにわかるとおり、この世にはほとんど無数といってよいほどのウェブサイトが存在する。その中でも、群を抜いて奇怪なサイトを紹介します。愛生会のウェブサイトである。タイトルのとおり、この病院は産婦人科であり、このサイトは当然、その公式サイトと位置づけられる。しかし、開いたとたんに、あなたは驚愕することだろう。そこには、病院らしい清楚なイメージをかもし出す要素一切合財が欠如した、ギンギラギンの黒背景が現れるのだから。大量に使用された gif ア

ニメーションは明るい色でちかちかと点滅し、招き猫の目は怪しく点滅している。おまけに BGM まで流れ出す始末。

こんなサイトを見て、この病院で赤ん坊を産もうとする母親がいるとは思えない。ここではユーザビリティの観点から紹介したが、それ以前に、サイトの主旨を考えていない。

実物を見たいという勇者は、検索すればすぐに見つかると思うのでお試しあれ。ただし当方は、一切の責任を負いかねます。



影響しない範囲でのみ利用を認めてもよいかと思えます。しかし、マウスに画像をつきまとわせたり、文字をきらきらときらめかせたりといった無駄な装飾にこのすばらしい技術を流用するのは本当にやめてほしいのです。そんなものは内輪の交流サイトの中だけで楽しんでいればよいのであって、前面に押し出すべき技術の産物ではないと思われるます。情報を求めるユーザにとっては、これらの技術の使用が不快であるという意識を持ってほしいのです。

美しいウェブページを

すでに幾度も述べたように、動的なページを作成することは、綺麗なページを作成することであって、美しいページにはなり得ません。しかし、美しいページというものを少しばかり説明した程度で動的なページを否定するのは、せっかく現れた技術に失礼というものでしょう。ですから、ここではウェブページの理想的な姿を追い求めてみたいと思います。

とりあえず、復習してみましょう。美しいページの条件は、以下の三つでした：

- 綺麗なページ
- 厳格なページ
- 便利なページ

先ほどもちらりと記しましたが、この一番目の条件である「綺麗なページ」というのは、解説のしようがないものです。何を美しいと感じるかは個人の差がありますし、何より美しいと感じる個人の心に従って制作すること自体が、この条件を満たします。ですから、例えば、パソコン部のウェブページの背景色は渋めの黄緑のような色をしていますが、これがくすんでいると感じた人がいても、それは全く不思議ではありません。そして、それら批判する人たちの意見を聞いて取り入れつつも、自らの感性を満足させるような設計を行うのです。これ以上、これに関して言うことはありません。

さて、二つめです。厳格なページというのは、例えば文語調で書いてあるとか、アスキーアート⁹や顔文字などを一切廃したページであるとか、そういったことを言っているのではありません（どだい、アスキーアートは一種の表現手法ですから、私自身は否定しませんし、画像を廃するといった方向性にとらえれば、テキストブラウザですら完全に認識できる上玉です）。ここで言う厳格な、というのは Hyper Text Markup Language や Cascading Style Sheet といった言語における文法にきちんと則ったページである、ということなのです。例えば、世間一般によく言われることを以下に挙げてみましょう：

- 閉じタグの省略をしない
- 推奨されないタグを使用しない
- 本来の意味通りにタグを付ける

かなり大雑把ではありますが、これらのことは、HTML という言語を記述する上で非常に重要なものです。日本語は、その言語特性上、微妙な差異や語法の間違いは感覚でカバーできてしまいます。語順に厳格である英語、語形変化が厳密なラテン語などといった言語でさえ、多少の差異は誤りとして判読可能なのです。しかし、機械はこれら自然言語を理解することができません。最先端の言語認識論を用いてさえ、機械が自然言語を解することはできないのです。しかし、人間がその手助けをしてやることは、当然できます。これが何を意味するか、ということ、あなたが理解して機械に教えることができるのです。これが、HTML という言語です。

さらに具体的な例を挙げてみましょう。以下の文章を見てください：

締め切りとパソコン部

我らが灘校パソコン部にも、これら情報を扱う業界によく見られる概念が存在する。それは、締め切りである。悪夢のように刻々と回る時計の針はその終了時刻を厳かに宣言し、そして我らは頭を抱えて後悔するのが常なのだ。

確実に言えることは、このパソコン部には以下のような性質を持つ人間が集まっていることだ：

- ぎりぎりにならないとやる気が出ない
- 先が見通せない

しかし、内部的にはどうにでもなってしまうのが非常に恐ろしいところで、例えばこの部誌の締め切りは三日前であるにもかかわらず、私はまだ中盤のこんなところを書いているのである。何とも情けない。改善したいものである。

さて、私たち人間は、これを見た瞬間にどれがタイトルで、どれが段落で、どれがリストかということを経時に理解できます。しかし、それを「なぜ」理解できるのかを、一概に定義することはできるでしょうか？ 機械にも応用できるような明確な理由をもって、ありとあらゆる文章のタイトルがタイトルたる所以を示せますか？ 当然、不可能

⁹文字で絵を表す、日本独特のネット文化である。見るだけで嫌悪感を感じる人もいるが、そのほと

んどは条件反射とも言える 2ちゃんねる嫌悪の産物である。

でしょう。なぜなら、それを我々は無意識のうちに行っているからであって、そしてその信じがたいほどに曖昧な工程を経て、私たちは文章の構造を理解しているわけです。ですから、すべてをデータ化して0と1で表すような機械に、自然言語を理解することは到底不可能なのです。

しかし、一定の規則に則って、その文章に印を付けるならば、機械はそれを理解することができます。例えば、以下のように：

```
<h1>締め切りとパソコン部</h1>
<p>我らが灘校パソコン部にも、これら情報を扱う業界によく見られる概念が存在する。それは、締め切りである。悪夢のように刻々と回る時計の針はその終了時刻を厳かに宣言し、そして我らは頭を抱えて後悔するのが常なのだ。</p>
<p>確実に言えることは、このパソコン部には以下のような性質を持つ人間が集まっていることだ:</p>
<ul>
<li>ぎりぎりにならないとやる気が出ない</li>
<li>先が見通せない</li>
</ul>
<p>しかし、内部的にはどうにでもなってしまうのが非常に恐ろしいところで、例えばこの部誌の締め切りは三日前であるにもかかわらず、私はまだ中盤のこんなところを書いているのである。何とも情けない。改善したいものである。</p>
```

これは HTML の例ですが、本文章は $\text{L}^{\text{T}}\text{E}_X$ で記述されており、この $\text{L}^{\text{T}}\text{E}_X$ という言語もまた、このような Markup Language の一つなのです。要するに、人間が仲介を行って自然言語の持つ意味を明示してやることこそが、これらの言語を書く理由に他なりません。言ってしまうと、HTML において、デザインなど二の次なのです。従って、厳密なコンピュータが厳密に理解できる HTML を書くことこそが、美しいページである条件であるといえるでしょう。

HTML には、いくつかの規格があります。最新のものでは、HTML 4.01 Frameset, Transrational, Strict の三つです。名称の通り、Frameset はフレームを作る際に用い、Strict は厳格な、という意味の通り、私の推奨する規格です。そして、一般に浸透しているのが、Transrational、即ち、前バージョンからの移行のために曖昧に作られた規格です。この規格は、やっかいなことに、一部の閉じタグの省略を認め、本来の意味とははずれた不要なタグや要素を含めているために、誤解を招きやすいのです。例えば、`<p></p>`(Paragraph) タグは、この間に挟まれた文章が段落であることを意味します。しかし、これを単体で記述すると、ブラウザは一行分の空白をあけるため、スペーサーとして用いるユーザが現れます。おまけに、中途半端な知識で開設サイトを開く輩が出現し、その誤解は一般に浸透してしまうのです。

しかし、Strict は違います。この規格は、スタイルシートの存在を前提とし、一切の装飾要素の存在を否定して、文章の論理構造明示に特化してあります。従って、この Strict という規格こそが、美しいページと名乗るにふさわしいと言えるのです。

Strict な HTML で書くということは、ありとあらゆるブラウザがこれに準拠する限り、どのブラウザでも統一した出力が得られるということです¹⁰⁾。それには、例に漏れず、視覚障害者の方々が用いる読み上げ UA などといった特殊なものまで含まれていま

¹⁰⁾ というのも、Internet Explorer, Opera を中心とするのは難しい。にしてバグが多々あるため、完全に表示を一致させるのは難しい。

す。この「厳格なページ」という条件を満たす限り、次の条件である「便利なページ」の条件の半分も満たすことになります。

ここで、一つだけ、具体例を出して挙げておきたい事例があります。<table>タグと、それに続く一連のタグについてです。このタグは、近年ネットでもよく使うと言われているように、アクセシビリティの観点からすれば非常に厄介なタグなのです。昔、まだ W3C という規格統一機関が存在しなかった頃は、ブラウザ制作会社が好き勝手に HTML を拡張したり、解釈を加えたりするという事態が横行していました。例えば、Internet Explorer の独自仕様であるスクロールバーの着色、Netscape Navigator の独自仕様である Layer タグなど、相互互換性のないタグや要素が乱立していったのです。これらの問題の渦中にあったのが、Table タグです。現在では、このタグの使用目的は単純な表に限られています。しかし、異常なまでに発達した罫線の装飾方法などからも伺えるように、この Table タグというのは、ページレイアウトを決めるためのものであると認識されていました。故に、当時はこれでレイアウトをすることは誤りではなかったといえるでしょう。ただし、このタグには非常に大きな問題があります。例えば、

- 読み込みが完全に完了するまで表示できない
- 枠線の設定が各社異なり、統一した表示が図れない
- 読み上げ UA が表として認識するため妙な読み上げを行う

といったものです。このどれを見ても、アクセシビリティやユーザビリティといった考え方に反していることがわかるでしょう。

それでは、これまでこのタグを使っていた場合は、どうすればいいのでしょうか。しかし心配する必要はありません。W3C はきちんと代用となりうるタグを示し、実際、これらを用いればほとんど同じレイアウトを実現することができます。



まず、レイアウトをすべて四角の枠線で捉えてください。ウェブデザインの基本は四角であって、鉤型でも円でもないのです。完璧に四角のみで表せたら、その中で意味だけを考えて、すべての四角にタグを割り振ってみます。例えば、メニューはすべての中に収めてみる、というように。どうしても意味が存在しない、レイアウト用の四角は<div>で囲えばよいですが、余白がほしいからもう一重四角を重ねる、などといったことはしないでください。なぜなら、CSS で余白を指定できるからです。この段階では、レイアウトを考えず、四角が横に並ぶ部分は、重要なほうを上に入ります。

この例を、我が部のトップページで示してみましよう。アドレスは、
<http://npca.my-sv.net/>
ですから、アクセスしてみてください¹¹⁾。ソースは、以下のようになっています¹²⁾。

```
<p id="welcome">Welcome to npca's Web Site.</p>
<p id="attention">
ここは灘校パソコン部のサイトであり、(中略)ご了承ください。
</p>
```

¹¹⁾もしかしたら、公開が追いつかず、古いバージョンのソースになっているかもしれない。そちらは、これほど簡潔ではないので、更新をしばし待っていてほしい。

¹²⁾ただし、見てのとおり、明示的な省略がある他、リンク先の URL や、画像のサイズ、場所といった解説に不用な情報は省略してある。

```

<p id="update">更新：2005/05/01（文化祭に伴う全面更新）</p>
<div id="print">
<h1><img alt="灘校パソコン部 - メニュー"></h1>
<ul id="menu">
<li id="m01"><a><img alt="更新履歴 - サイトの歩みなど"></a></li>
<li id="m02"><a><img alt="活動理念 - 趣旨、目標、近況などなど"></a></li>
（中略）
<li id="m09"><a><img alt="社会之窗 - 他サイト様へのリンク集"></a></li>
<li id="m10"><a><img alt="部員専用 - 部員たちの専用スペース"></a></li>
</ul>
</div>
<p id="busy">
&quot;；時間のないサイト運営者リング&quot;に加盟しています。<br>
<a class="none"><img alt="時間のないサイト運営者リング"></a>
</p>

```

"；というのは、実体参照で"を意味します。見てのとおり、タグの中にもこの記号があるため、ブラウザに誤認されないためにこのような記述を行うことが推奨されます。

ここで見ていただければわかるように、本来左側にある npca ロゴは、メニューの上に記述されています。メニューはコンテンツ名の列挙であるから、リストに格納してみました。

さて、これらのタグは、ほとんどすべてがブロックレベル要素 すなわち、幅や高さを指定できる要素です（もっとも、CSS で非ブロック要素をブロック要素にすることができますが）。ブロックレベル要素は、幅を指定した場合、CSS によって回り込みをさせることができますのです。例えば、CSS で以下のように記述すれば、これらの要素は横に並びます：

```

h1 {
width : 450px ;
float : left ;
}
ul#menu {
width : 300px ;
float : left ;
}
p#busy {
clear : left ;
}

```

最後の p に対する clear というのは、回り込みを解除するためのものです。これを記述しなければ、表示がおかしくなります。clear に後続する指定は、直前の float と同じにすればよいでしょう。ただ、回り込みの解釈はブラウザによってかなり違うので、使用する場合はせめて主要な 3 ブラウザで表示を確認したいものです。

また、これらをセンタリングして表示したければ、さらに以下のように記述すればよいでしょう¹³⁾:

```
div#printf{
  width : 750px ;
  margin-left : auto ;
  margin-right : auto ;
}
```

余白を一切消していない点には注意してください。往々にして、余白の消し忘れはレイアウト崩壊に直結します。明示していようが、していまいが、margin, border, paddingの値にはいつも気を配っておきましょう。

さて、実はここで一工夫することができます。

```
h1, h1 img {
  display : none ;
}
ul#menu {
  width : 300px ;
  margin-left : auto ;
  margin-right : auto ;
  padding-left : 450px ;
  background-image : url("アドレス") ;
  background-repeat : no-repeat ;
  background-position : left top ;
}
```

こう書き換えるとどうでしょうか¹⁴⁾。回り込みを回避して、同じ動作を実現できました。印刷をしないのなら、div タグの存在も意味のないものになります。おまけに、テキストブラウザは CSS を無視するから、表示段階で無視されてしまった h1 の中身もきちんと表示してくれます。こういう工夫は経験を積まないといけません¹⁵⁾、できるようになれば、美しいソースを自然にかけるようになります。

さて、少し中途半端な気もしますが、次の条件、「便利なページ」の解説に入りたいと思います。こちらは、規格や文法云々という話ではなく、むしろ感覚的な第一の条件に近いものです。なぜなら、便利だと感じる条件というものもまた、個人によって多少の差異があるに違いないからです。しかし、こちらは色彩的感覚などといったセンスの問題とは違い、ある程度の共通点を見いだすことができます。他人の気持ちになって考え

¹³⁾ただし、XHTML を用いる場合、Internet Explorer 6.0 の時点では margin: auto のセンタリング解釈にバグがあり実現できない。

¹⁴⁾background という一括指定方法もあるにはあるのだが、対応していないブラウザが多いので使用

していない。これぐらいは対応してほしいものだ。

¹⁵⁾おごりに聞こえるかもしれないが、このソースに到達するまでに最低 10 回は一から書き直しているのだ

ることができます。ですから、こちらに関しては、私もまた、詳しく解説ができるということなのです。

まず、これを考えるときにやらなければいけないことは、制作者の視点を捨てる、ということです。即ち、このウェブページを見る人の視点に立って、これが便利なのだろうか、ということを徹底的に検証するのです。例えばマウスがない場合、ディスプレイが800×600しかない場合、といった機械的側面から、聴覚や視覚が不自由な方の場合、といった肉体的側面まで、それこそ星の数ほど考えることはあります。ありとあらゆるユーザの条件に対応できるウェブページなどというのは装飾をかなぐり捨てたページだけでしょうが、それでもある程度の妥協を許せば、美しいと言えるウェブページを作ることは可能だと思われます。

例えば、メニューをクリックするときに、そこになんの説明もなければ、あなたは どう思うでしょうか。もし英語やドイツ語でメニューが書かれていたら、あなたは それを読んで、理解して、そして入ろうとするでしょうか？

そんなわけはありません。大抵の日本人は、日本語以外の大抵の外国語（Illust や BBS、Links などは除きますが）に関して拒絶反応に近い行動を起こします。従って、例えば英語でメニューを作るということ自体が、客層を狭めることになると思ってください。

さらに、メニューをクリックしてサイト内部を見たとしてもしょう。当然、そこには内容が並んでいるわけですが、もし、このページの上下あるいは左右にメニューがなければ、閲覧者はどう思うでしょうか。戻るボタンが一つだけぼつりとあるようなメニューでは、閲覧者は満足しません。いちいちメニュー画面を見せる構造というのは受け入れられないのです¹⁶⁾。

このような例に示されるように、便利なページは、本当に個人個人の感覚によって作成されることになります。何十回、もしかすると何百回と自分のページを見つめながら、不便な点はないか、使いづらい点はないか、ということにのみ目を光らせれば、自ずとそのページはこの条件を満たします。もちろん、自分のものを自分で厳しく評価できる人はそうおりませんから、他人の目を入れることも大切だと思います。

それから、付け加えて言うと、近年の傾向をみると、閲覧する端末の種類が増えてきていることに気づきます。携帯電話や PDA といった、非常に小さな画面しか持たない端末で閲覧する方も増えるかと思えます。それらに配慮しろとは言わないまでも、例えば印刷であるとか、現段階ですでに定着している出力の方法については、それなりの対策を練りたいものです¹⁷⁾。例えば、印刷ではありとあらゆる背景要素が表示されませんし、幅も制限されます。それらをすべて考えにいれて、美しいページというのは作り上げられていくのです。

¹⁶⁾)といいながら、我が部のウェブページはそうになっている。次回作では完全に改善されているが、公

開が間に合うかどうか。

¹⁷⁾)印刷対応の第三期版は、綺麗な印刷が可能です。

総括

長々と、自分の意見ばかりを述べてきました。細かいことも書きましたが、結局、ウェブページのデザインは以下の二点に集約されるのです：

- 自分の感覚と他人の意見を可能な限り反映すること
- 厳密な文法記述を守ること

こう2行だけ書いてしまえば、簡単そうに思えるかも知れません。しかし、15ページの長きにわたり（おまけにこれでも多少省略してあります）、私程度の高校生が書けるような内容を、このテーマは内包しています。

ウェブデザインという分野、クリエイターという仕事は、己の感覚のみでできるものではありません。仕事という前提の上でのデザイン、企業というイメージの中での設計というものが、重くのしかかってきます。しかし、それらを受け止めてなお、美しいウェブページを作れること、これこそが私の理想とするものなのです。

本当に、自分の意見ばかりを述べたような気がします。ご意見、ご感想などは、ウェブページの方でお待ちしております。お気軽にどうぞ。ただし、コラムの通り、軽薄な書き込みはご遠慮願いますよう、お願いいたします。